

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稻	紋枯病 トビイロウンカ(注意報第6号継続)	並 やや多	並 多
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類(防除情報第15号)	並 やや多	やや多 やや多
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G. cingulata</i>) ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 やや多 並	並 並 やや多 やや多
アスパラガス	斑点性病害(斑点病・褐斑病) アザミウマ類	多 並	多 並
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	- 並	並 並
果樹共通	カメムシ類(防除情報第14号参照)	並	並
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ チャノココクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	少 やや少 やや多 並 やや多 やや多 やや少	少 やや少 やや多 並 やや多 やや多 やや少

【発生予報】 本文の()内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(111筆)の結果、発病株率は2.0%(3.8%)、発生圃場率は36.0%(45.9%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は22.0%(26.9%)であった。

2. トビイロウンカ

平成22年9月1日付け病害虫発生予察注意報第6号を継続。

なお、その後については以下のとおりである。

(1) 発生状況

ア 9月上旬の巡回調査(111筆)の結果、株当たり虫数は0.6頭(0.4頭)、発生圃場率は62.2%(35.0%)であった。

- イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生株率は82.0%（29.5%）、株当たり虫数は1.7頭（1.2頭）であった。
- ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

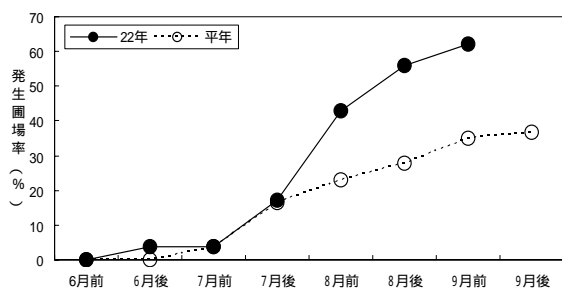


図1 トビイロウンカ 発生圃場率の推移 (巡回調査)

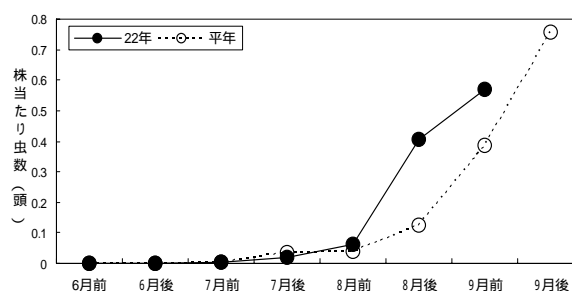


図2 トビイロウンカ 株当たり虫数の推移 (巡回調査)

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 9月中旬に株当たり成虫・老齢幼虫を5頭以上認めたら早急に防除する。
- イ 本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りが大きい。このため、防除を行った圃場でもその後の発生状況に十分注意し、防除効果の確認を行うとともに必要に応じて追加防除を行う。
- ウ 株元を好んで寄生するので、薬剤散布は株元に薬剤が十分に付着するようていねいに行う。
- エ 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに周辺環境に配慮し、薬剤の飛散に十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 9月上旬の巡回調査（15筆）の結果、幼虫の寄生株率は5.5%（11.1%）、株当たり虫数は0.4頭（0.7頭）、白変葉発生圃場率は40.0%（50.6%）であった。
- イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（寄生株率20.3%）。
- ウ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、平年より多く推移している（図）。
- エ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、新しい白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

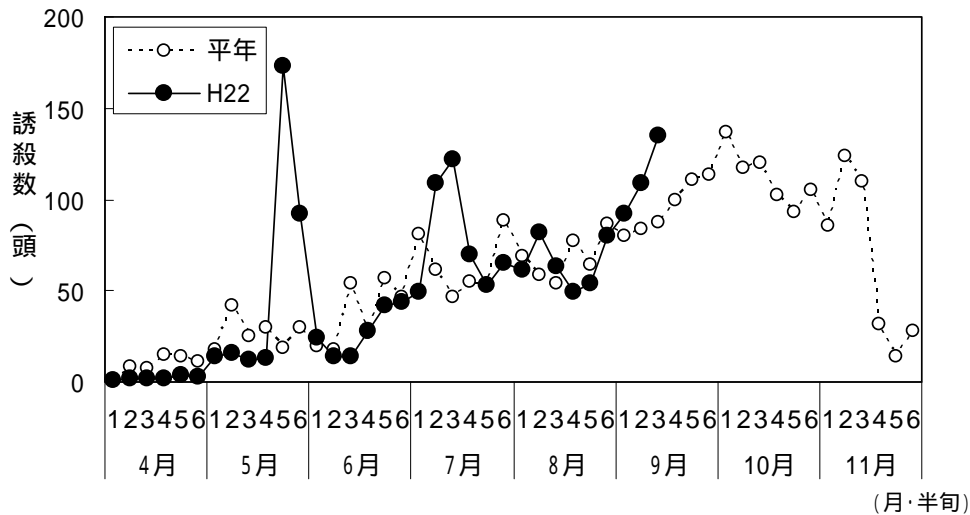


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

2. 吸実性カメムシ類

平成22年9月15日付け病害虫発生予察防除情報第15号による。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率1.5%)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。
- イ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にも薬剤がむらなくかかるように十分量を散布する。
- ウ 薬剤耐性菌発達の防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.4%(0.5%)、発生圃場率は9.1%(10.3%)であった。

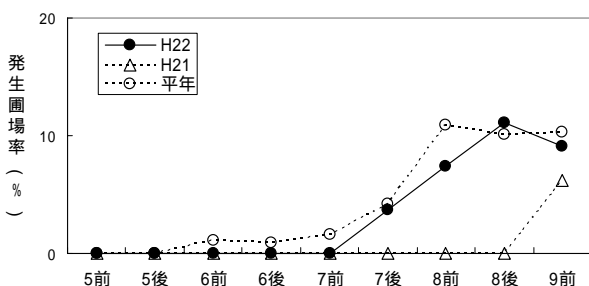


図 炭疽病(*G.cingulata*) 発生圃場率の推移(巡回調査)

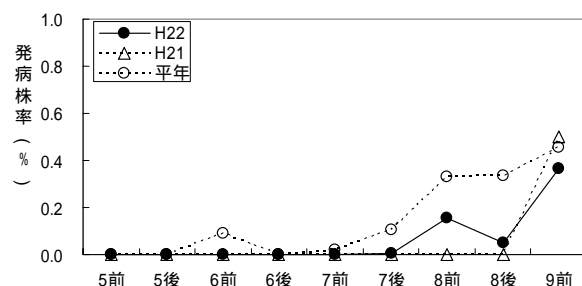


図 炭疽病(*G.cingulata*) 発病株率の推移(巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病した株および発病のおそれがある株は速やかに処分するとともに、定植苗の選別を徹底し疑わしい株は本圃へ定植しない。
- イ 本圃で発病した場合は速やかに圃場外へ持ち出す。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 特に台風の前、後、降雨などにより発生のおそれがあるときは、薬剤散布を徹底する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は4.4%(3.2%)、発生圃場率は42.4%(20.6%)であった。

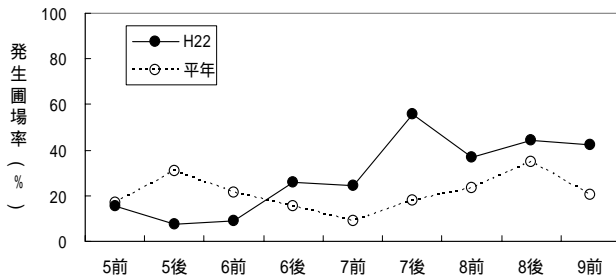


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

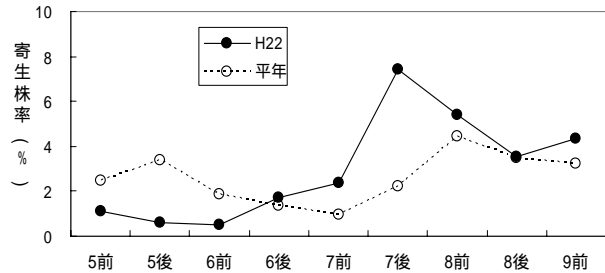


図 ハダニ類 寄生株率の推移(巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本圃に持込まないように、定植前の防除を徹底する。
- イ 薬剤散布は散布むらがおこらないように、葉裏まで付着するように十分量をていねいに散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。
- エ 本圃での天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては長期間影響を与えるものがあるので、使用時期に注意する。

4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 9月上旬の巡回調査(33筆)の結果、食害株率は5.0%(4.3%)、発生圃場率は57.6%(45.6%)であった(図)。
- イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年より多く推移している(大豆の項参照)。
- ウ 向こう1ヶ月の気温は平年より高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

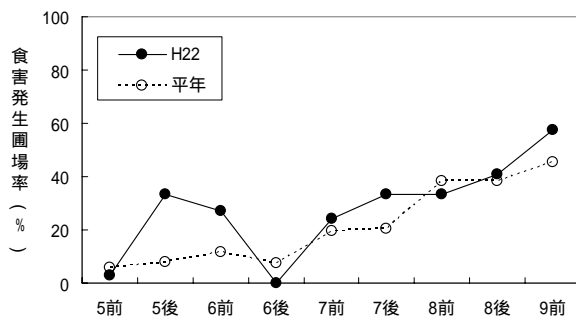


図 ハスモンヨトウ食害発生圃場率の推移

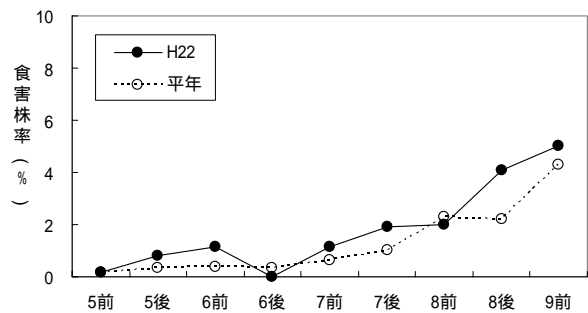


図 ハスモンヨトウ食害株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 被害が見られたら早急に防除を行う。
- イ 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に防除を行う。
- ウ 薬剤は虫体によくかかるようにいねいに散布する。

アスパラガス

1. 斑点性病害(斑点病・褐斑病)

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発病側枝率は14.2%(過去3カ年平均1.6%)、発生圃場率は66.7%であった(過去3カ年平均22.2%)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스開口部をできるだけ開放し、通風を良くして施設内の換気に努める。
- イ 被害茎葉を除去し、圃場外へ持ち出す。
- ウ 夏季は病勢が停滞しているが、気温が下がる秋雨期に入ると多発しやすいので定期的に薬剤散布する。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は7.9頭(過去3カ年平均10.7頭)、発生圃場率は66.7%であった(過去3カ年平均59.3%)。

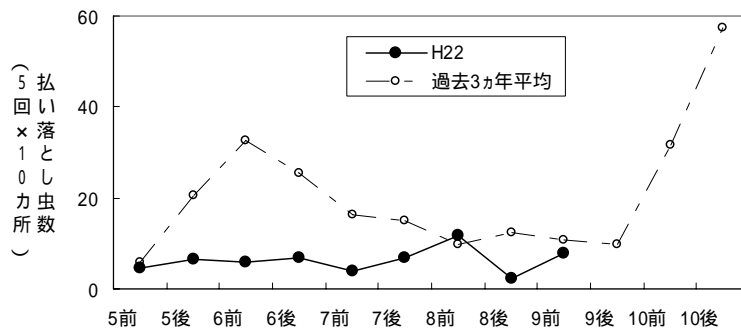


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)

払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. 青かび病、緑かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1か月間の降水量は平年並の見込みである。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は8.9%(8.8%)、発生圃場率は53.8%(53.5%)であった。

果樹共通

1. カメムシ類

平成22年9月2日付け病害虫発生予察防除情報第14号を参照。

なお、以後の発生は以下のとおりである。

予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は、地域による差はあるものの平年並に推移している(図)。

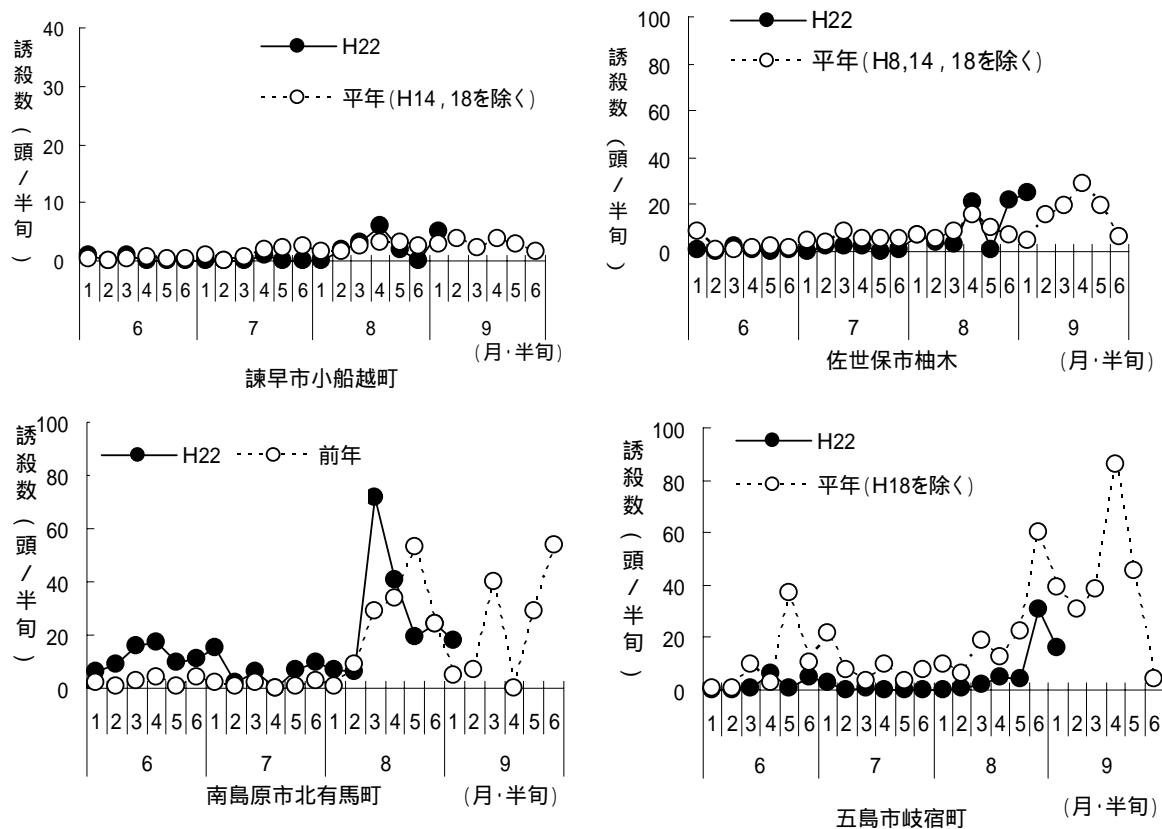


図 予察灯による果樹カメムシ類誘殺数の推移

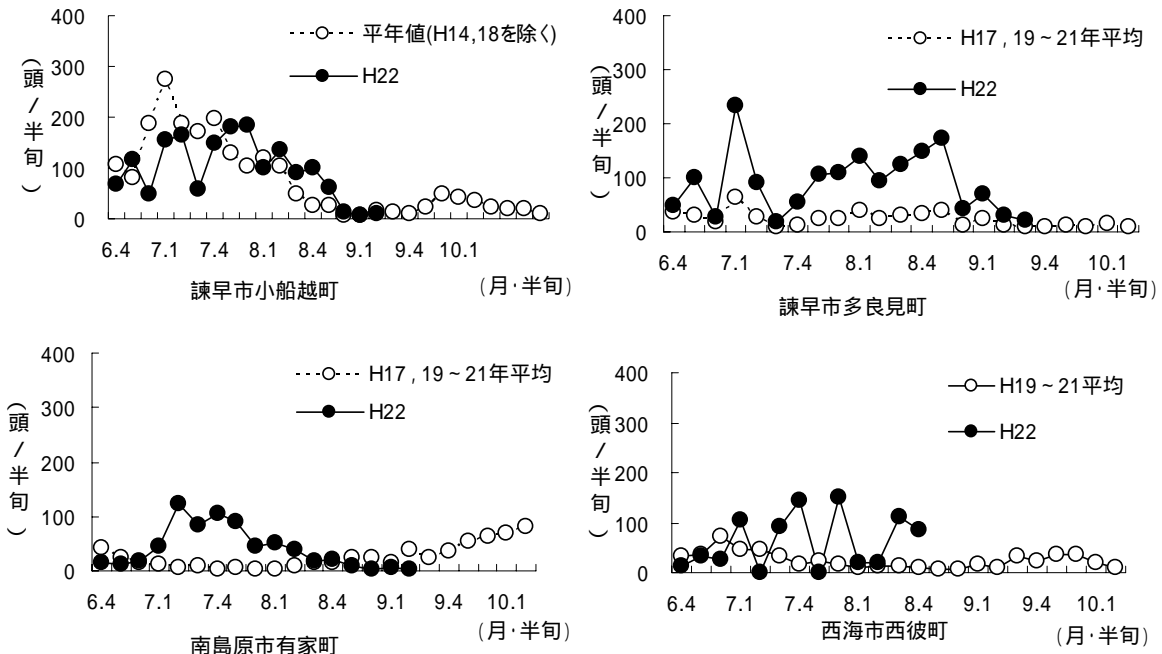


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況（黄色コガネコール）

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡あたり発病葉数は0.8枚（8.3枚）、発生圃場率は20.0%（54.5%）であった。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生葉率は0.2%（1.1%）、発生圃場率は15.0%（20.0%）であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は27.7頭（12.3頭）、発生圃場率は90.0%（62.9%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

4. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.4枚(0.3枚)、発生圃場率は20.0%(16.6%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年より少なく推移している(図)。

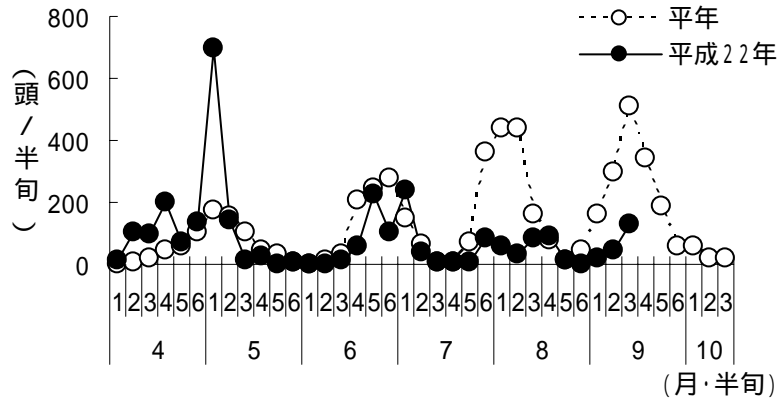


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況
(東彼杵：フェロモントラップ)

5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は4.2枚(0.6枚)、発生圃場率は60.0%(24.1%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、8月4半旬～5半旬にかけて、平年よりやや多く推移している(図)。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

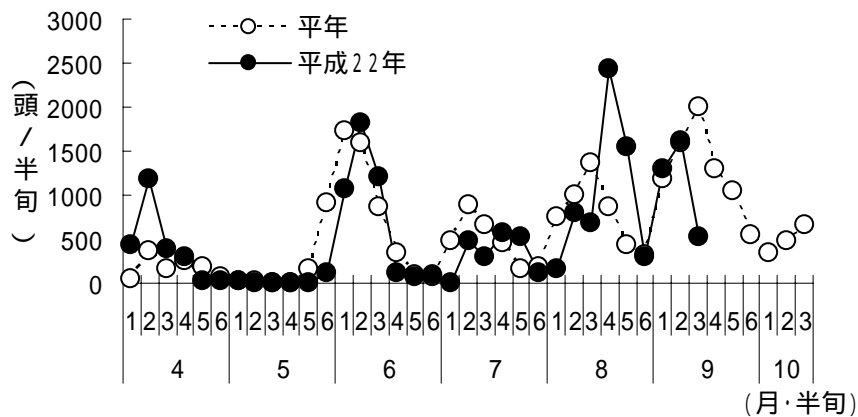


図 チャノホソガの誘殺状況
(東彼杵：フェロモントラップ)

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.6頭(0.9頭)、発生圃場率は85.0%(34.2%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫は葉裏にいることが多いので、葉裏にも薬剤が十分かかるよう散布する。

7 . クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は1.1% (4.9%)、発生圃場率は15.0% (29.1%)であった。

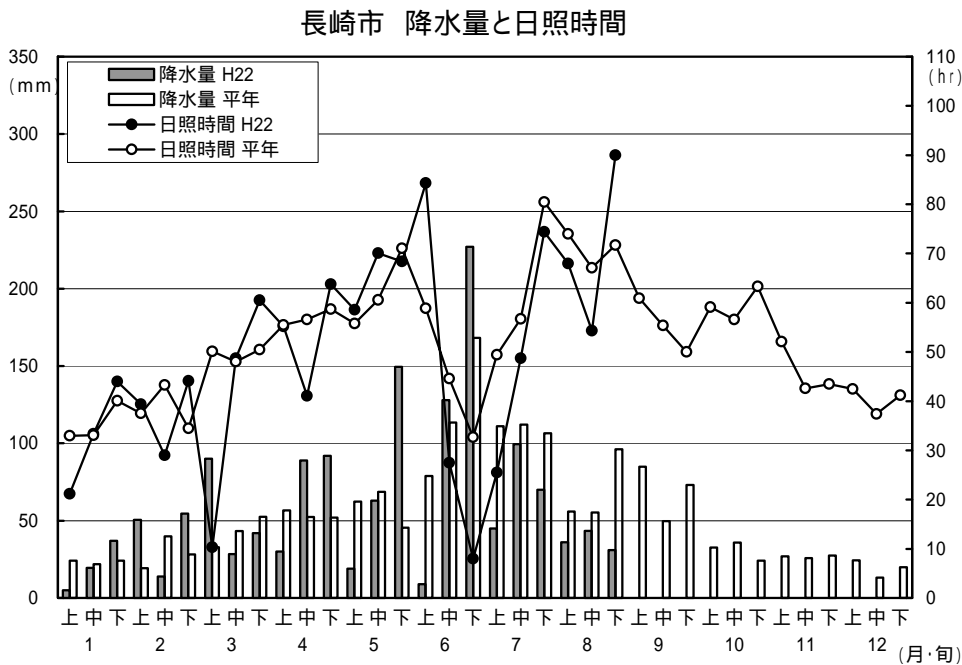
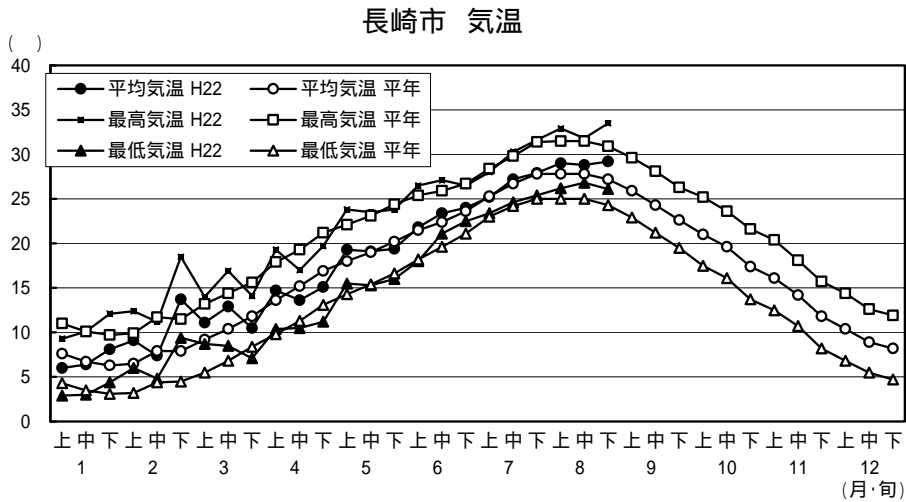
【参考】
気象

(平成22年9月10日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

予報対象地域：九州北部地域

平成22年の気象経過 (長崎海洋気象台)



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL : 0957-26-0027